イスラーム地域研究機構 11年の歩みをふりかえって

桜井　啓子
早稲田大学国際学術院教授・早稲田大学イスラーム地域研究機構機構長

イスラーム地域研究機構の設立から11年の歳月が流れた。この間、機構は、主として以下の3つの研究事業に取り組んだ。

第一は、大学共同利用機関法人・人間文化研究機構／National Institutes for the Humanities（NIHU）との共同研究事業「NIHUプログラム・イスラーム地域研究」（第一期2006年度～2010年度、第二期2011年度～2015年度）である。当機構は、早稲田大学・東京大学・上智大学・東洋文庫・京都大学に設置された研究拠点を結ぶネットワーク型共同研究の中心拠点として10年にわたって事業を推進した。[1]

第二は、共同利用・共同研究拠点（イスラーム地域研究拠点）としての活動である。イスラーム地域研究機構は、2008年、文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点（イスラーム地域研究拠点）の認定を受け、文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」（2008年度～2009年度）、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」（2010年度～2012年度）を実施した。2013年には、再認定を受け、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業（イスラーム地域研究拠点）機能強化支援」（2016年～2018年度）に採択された。

この間に共同利用・共同研究拠点として、12件の公募研究を実施し、全国各地の大学に所属する研究者の研究交流を促進した。また「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業（イスラーム地域研究拠点）機能強化支援」では、イスラーム諸国の研究機関に所属する研究者との共同研究に注力し、海外との研究ネットワークの拡充を図った。

第三は、日本学術振興会の拠点形成事業である。アジア・アフリカ学術基盤形成事業「イスラームと多元文化主義」（2011年度～2013年度）では、マラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院（AEI）と組んで研究交流事業を推進した。日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「多文化環境下における価値の交渉」（2014年度～2016年度）では、当機構とマラヤ大学アジア・ヨーロッパ研究院ならびにニューヨーク大学アブダビ校の三拠点で研究交流事業を実施した。

各事業の詳細な報告は、毎号の『イスラーム地域研究ジャーナル』に掲載済みのため、ここでは繰り返さないが、小規模な研究会から大規模な国際会議まで実に多くの会議を主催した。さらに『イスラーム地域研究ジャーナル』の発行、国際会議のプロシーディングス、調査研究報告書、英文論文集New Horizons in Islamic Studies（Routledge）、英文単著Islamic Area Studies（Brill）、『イスラームを知る』シリーズ（山川出版社）全24巻、『イスラーム原典叢書』シリーズ（岩波書店）などを世に送り出した。また、「大日本回教協会旧蔵写真資料」、「フスタート遺跡出土遺物」、「エジプトにおけるキリスト教関連建築」、「カイロのイスラーム建築」の四つのデータベースを作成・公開した。

機構の活動の基礎となった「イスラーム地域研究」は、初代機構長・佐藤次高教授によると「現代問題への歴史的なアプローチと地域間比較の手法を活用することにより、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築く新しい研究分野」である。2012年に佐藤教授から機構長を引き継いで7年の歳月が過ぎた。その間に人文・社会科学研究を取り巻く環境は激変し、研究成果の国際発信が以前にも増して強く求められるようになった。そうした状況に対応すべく、本機構も国内の諸機関を束ねる中心拠点としての役割から

早稲田大学イスラーム地域研究機構　沿革

2006年度	早稲田大学イスラーム地域研究所が、早稲田大学総合研究機構に属するプロジェクト研究所として設立される。大学共同利用機関法人・人間文化研究機構/National Institutes for the Humanities（NIHU）との共同研究事業「NIHUプログラム・イスラーム地域研究」（第一期2006年度～2010年度）開始。当研究所は、早稲田大学・東京大学・上智大学・東洋文庫・京都大学に設置された研究拠点を結ぶネットワーク型共同研究の中心拠点として事業を推進。
2008年度	文部科学省「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」（2008年度-2009年度）採択。
2008年度	「NIHUプログラム・イスラーム地域研究」ならびに「人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」を推進するためにイスラーム地域研究所を管轄する早稲田大学イスラーム地域研究機構を設立（7月）。イスラーム地域研究所は、早稲田大学総合研究機構からイスラーム地域研究機構に移籍。
2008年度	早稲田大学イスラーム地域研究機構は、文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点（イスラーム地域研究拠点）として認定を受ける（10月）。
2010年度	文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」（2010年度～2012年度）採択。
2011年度	大学共同利用機関法人・人間文化研究機構（NIHU）との共同研究事業「NIHUプログラム・イスラーム地域研究」（第二期2010年度～2015年度）開始。引き続き、当機構は、早稲田大学・東京大学・上智大学・東洋文庫・京都大学に設置された研究拠点を結ぶネットワーク型共同研究の中心拠点として事業を推進。
2011年度	日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「イスラームと多元文化主義」（2011年度～2013年度）採択。
2013年度	文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点（イスラーム地域研究拠点）として再認定を受ける（2013年～2018年度）。
2014年度	日本学術振興会研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）「多文化環境下における価値の交渉」（2014年度～2016年度）。
2015年度	アジア・ムスリム研究所が、重点領域研究機構からイスラーム地域研究機構へ移籍。
2016年度	「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業（イスラーム地域研究拠点）機能強化支援」（2016年～2018年度）採択。

次第に国際的な研究ネットワークの形成へと重心を移行させた。特に2016年からの3年間は、その傾向が鮮明になったと思う。本ジャーナルを縦書きから横書きに変え、英文掲載率を増やしていったのもそのような時代背景に対応したものである。

イスラーム地域研究機構の11年間（イスラーム地域研究所の設立から数えると13年間）は、歴史と現代の対話、異なる地域との比較、多様なテーマやアプローチなどを通じて、イスラームとイスラーム文明への理解を深めるための様々な試みの連続だったといえる。

2019年3月31日をもって、共同利用・共同研究拠点の活動が終了し、それに伴ってイスラーム地域研究機構も廃止されるが、機構の活動に参画して下さった研究者による研究成果や機構の研究活動を通じて形成された国内外の研究者ネットワークが、今後ともイスラーム地域研究の発展に寄与することを願ってやまない。これまで研究活動を支えて下さった機構所属の歴代研究員のみなさま、早稲田大学の各学術院に所属しながら機構の構成員として、あるいは運営委員としてご協力下さった先生方、公募研究をご指導下さった学内外の運営委員の先生方ならびに公募研究に参画して下さった研究者のみなさま、NIHUプログラム・イスラーム地域研究でともに活動した他拠点のみなさま、機構の研究活動に参加して下さった海外の研究者のみなさま、そして機構の運営を支えて下さった研究院事務所のみなさま、機構で研究補助者として様々な作業を担ってくれた大学院生のみなさま、11年間、本当にありがとうございました。心より御礼を申し上げます。

NOTE

1　2006年度～2007年度は、イスラーム地域研究所が中心拠点を担ったが、2008年度以降、イスラーム地域研究所は、イスラーム地域研究機構の傘下に入り、機構と一体となって活動してきた。